

四日市市立水沢小学校

学校だより



令和7年2月12日 第52号



## オンライン交流をしました。(3年生)

1月28日(火)に、3年生は県小学校の3年生とオンライン交流をしました。本校の子どもたちは、順番に役割を決めて、自然いっぱいの水沢地区の様子を紹介していました。進行も水沢小が担当だったため、代表の子たちが頑張ってくれていました。学校に茶園があって、かぶせ茶のためにクレモナかけをしたことや、地域での校区探検の様子についてふれていました。県小からは「しなやかファーム」のキュウリ栽培、山萩梨園を実際に見に行った時の様子などについて伝えてくれました。竹谷川の桜をはじめとする自然の豊かさや学校目標について、学級や学校の様子についても紹介してもらいました。



質問コーナーでは、県小の子から「水沢地区はどれぐらい雪が積もるのか」といった話が出ました。水沢地区で30cmぐらい積もっている時に、県地区では1cmぐらいの積雪だったみたいで、子どもたちからは驚きの声があがっていました。校歌についても、お互いの校歌の歌詞で、印象に残る部分を歌い合って紹介していました。

普段、なかなか関わりのない子どもたち同士が話すことにより、それぞれの学校の子どもたちが、自分たちのふるさとを思う気持ちを強くしたように感じました。

## 性の多様性について考えました。(4年生)

2月4日(水)の総合的な学習の時間に、「性の多様性って何だろう?」というテーマで学習しました。提示されたお菓子のキャラクターについて、性の観点から分類してみました。担任から与えられた6つのお菓子のキャラクターを、男性なのか女性なのか、どちらとも違うのか、タブレットにある表に移動して並べました。「ちゃんがついているから女の子、くんがついているから男の子だ」「髪をリボンで結んでいるから女の子だ」「服装から女の子だ」とか言いながら、移動させてキャラクターを分けていました。お菓子の会社のホームページを調べてみると、性別がはっきりと決まっていないキャラクターがあることもわかりました。



その後、養護教諭から「からだの性(生まれた時にわりあてられた性)」「こころの性(自分が感じる性)」「好きになる性(好きになる相手の性)」の性を表す3つの性について学びました。セクシャルマイノリティを公言している有名人を教材として使い、「性のものさし」について考えました。

性的マイノリティの割合は、さまざまな調査によると10人に1人ぐらいと言われています。性的思考に気づくのは、小学校高学年から高校生にかけての思春期や物心がついた頃から始まる場合が多いと言われています。

自分やなかまが苦しまなくてもいいように、今から将来のためにしっかりと学んでおくことが大切です。

## 青少年のインターネット利用に係る普及啓発リーフレットについて

子どもを取り巻くインターネット利用環境は日々変化しており、こども家庭庁をはじめ関係省庁や団体において、普及啓発リーフレット等が作成されています。こども家庭庁からは、保護者向け普及啓発リーフレットとして①「みんなで考えよう!賢く・便利に・安全に!今どきのネットの使い方(令和7年1月版)」②「ネット・スマホ活用世代の保護者が知っておきたいポイント(令和6年1月版)」が出されています。



これらのリーフレットでは、保護者向けに、こどものインターネット利用について、保護者が持つ疑問や不安などに対し、上手な使わせ方、安全設定、ルールづくり等についてのヒントや困った時の相談窓口などが紹介されています。また、青少年の情報「発信」を契機とするトラブルに対する取組等の推進に着目し、自画撮り被害や誹謗中傷等への対応、フィルタリングの活用や家庭でのルール作り、犯罪につながる内容に対しての注意喚起などが紹介されています。

こども家庭庁からの書面に掲載されている二次元コードを掲載しますので、ぜひご覧いただき、インターネットの正しい使用方法について、ご家庭でも子どもとお話いただけたらと思います。よろしくお願ひします。(文責 北住 昌文)